

～赤十字電子医学資料「コンソーシアム」に参加して～

赤十字電子医学資料コンソーシアム説明会に出席して

藤 有 造

平成20年7月18日に、本社で「赤十字電子医学資料コンソーシアム説明会」がありました。研修環境の充実を図る上で、電子医学資料の共同利用を目指した図書室機能強化の必要性について教養を深め、図書室に勤務する職員の資質向上を目的とした説明会でした。

赤十字施設が重要課題として取り組んでいる“安全と教育”を進め、すべての施設が“キャリアアップが出来る赤十字”として、より力を発揮できるようにするには、電子情報を積極的に利用して効率の良い医療情報の収集・知識獲得を図ることが必要不可欠となっています。その取り組みとして、電子医学資料の積極的導入が求められており、コンソーシアムによるスケールメリットを活かした価格交渉等、有利な条件の確保ができるシステムで交渉していかなければなりません。

当院は、神戸赤十字病院と須磨赤十字病院が合併、平成15年8月に新たな神戸赤十字病院として開院し、兵庫県立災害医療センターとの共存運営の中で、業務の連携が模索され、5年経った現在、病院のすべての部署で再点検・見直しをしていくことが求められています。自分の勤務する病院がどのような医療を提供し、地域の中でどのような病院として医療を展開していくのか。また病院の経営戦略として、医療のレベルアップにどのように

医療情報を提供していくのかを理解して、業務を進めていくことがより一層求められています。

医療を提供する立場にある者にとって、その根拠となる医療情報は必要不可欠で漏らすことのできないものであり、豊富な医療情報の確保は、病院で働く人が十分に能力を発揮していくための必要条件となっています。しかし、予算が限られているので、そのすべてを網羅することはできません。数多くある電子資料の中から限られた予算を有効に使って“何を選んでいくのか”と常に迷いながらの業務遂行となるのではないのでしょうか。電子ジャーナル導入が加速化する現状に病院の図書室業務も変化していかざるを得ません。図書室機能の有効利用・強化が求められていなかで、担当者の能力が大きな格差となって現れるようで、私個人は不安な気持ちを抱えています。

現在の私は図書室担当者として、業務についていくことで精一杯の状態であり、能力アップの必要が求められています。業務遂行と能力アップの同時進行と共に、コンソーシアム参加による24時間営業の活発な図書室運営を可能にしていかなければと考えています。しかし、当院の現状は、図書費のほとんどが冊子体の購入に使用されており、電子ジャーナルへの移行をどのようにするか検討している段階であり、まだ良い案を作ることは出来ていません。いま正に担当者の能力が試されています。

FUJI Yuzo

神戸赤十字病院 図書室

tosho@ishinomaki.jrc.or.jp

図書資料の管理から電子ジャーナルを主として、冊子体を従とした利用環境へ移行するなど、図書室業務のサービス内容が変化していくことで、図書室担当者の業務軽減が強調されています。しかし、情報量の増大が激しい状況の中で利用者が適切な選択をしていくことができるか、できずに情報に溺れてしまうか、電子医学資料の積極的導入で医療が停滞することがないようにしていくことが図書室担当者の使命なのです。また溢れ出てくる

ような情報の取り扱い、高度の専門性を求められ、その中で図書室のあり方、業務の重要性などが、病院運営の大切な一部分として見直しを迫られています。

高度な医療レベルの維持は、電子医学資料導入による高い利便性による利用者サービスの向上で実現するのです。コンソーシアム参加で、“個々の利用者にバランスよく十分な情報提供をすることができた”と思えるような導入を目指したいと思います。